

ステップ

### 3 定着を高めるために

- チリカブリダニ放飼から3日間は農薬(チリカブリダニに影響のない農薬も含めて)の散布は控えてください。
- ハダニの密度が著しく高い場合、チリカブリダニのみでは十分な効果が得られません。このような場合には、チリカブリダニを順調に定着させるために、化学農薬との体系防除をおすすめします。

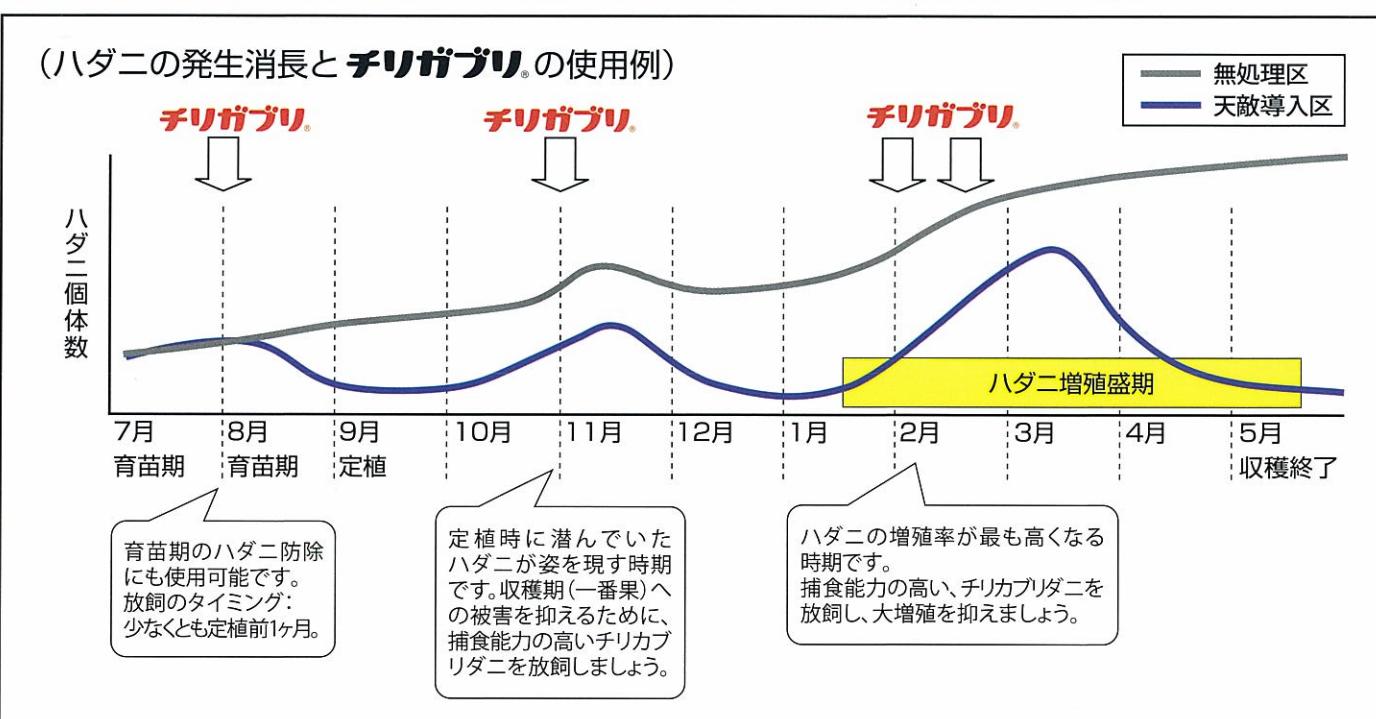
#### 推奨防除体系1

選択性の高い殺ダニ剤を散布後、チリカブリダニを放飼→放飼1週間後にアカリタッチ乳剤を4~5日間隔で2回散布。

#### 推奨防除体系2

アカリタッチ乳剤を4~5日間隔で2回散布後、チリカブリダニを放飼。

### いちご(施設栽培)でのおすすめ使用時期は3時期!



- チリカブリダニ導入後は、チリカブリダニに影響のある農薬は使用しないでください。
- チリカブリダニのえさはハダニ類なので、商品が到着後、速やかにご使用ください。
- 万が一、到着当日に放飼が困難な場合には、5°C前後の冷涼な場所で保管し、遅くとも翌日には必ず使用してください。

**ISK** 石原バイオサイエンス株式会社

〒102-0071 東京都千代田区富士見2丁目10番30号

0120 FreeDial 石原テレホン相談室 0120-1480-57

取り扱い

天敵殺虫剤

# 石原 チリガブリ®

チリカブリダニ剤 30ml(2,000頭入り)



**ISK** 石原バイオサイエンス株式会社

# チリガブリ® 使用

# 3

## 3つのステップ

1 → 2 → 3

ステップ

1

### どんな剤か知りましょう

#### チリカブリダニの特長

農作物を加害するハダニ類(ナミハダニ、カンザワハダニ等)だけをエサとする天敵です。他のハダニ類天敵に比べて高い捕食能力と増殖能力を持ち合わせています。

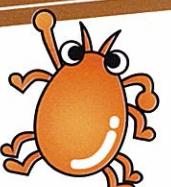
#### 登録内容

作物名	適用病害虫名	10アール当りの使用量	使用時期	使用方法	総使用回数
野菜類(施設栽培)、 ばら(施設栽培)	ハダニ類	4,000~6,000頭*	発生初期	放飼	—

\*1ボトル当りチリカブリダニが2,000頭入っていますので、10a当たり2~3ボトルが必要です。

チリカブリダニの  
増殖について

- 卵から成虫までの発育日数
  - ▶ 15°C: 約18日
  - ▶ 25°C: 約5日
  - ▶ 30°C: 約3.5日
- 活動適温18~30°C
- 最適条件下での増殖率
  - ▶ 10日間: 24倍
  - ▶ 20日間: 460倍



ステップ

2

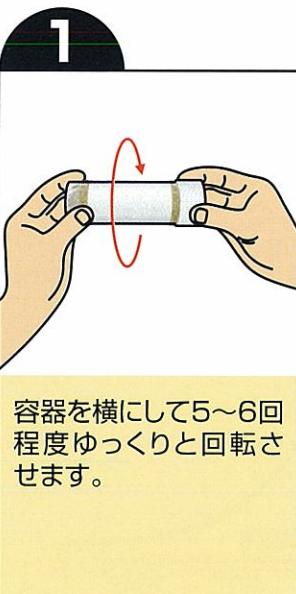
### 正しく使いましょう

放飼方法  
(使用方法)

●容器内でチリカブリダニが偏在していることがあるので、使用の際は容器を横にしてゆっくり回転させ均一に混在させたのち、所定量を葉の上に容器から少量に分けて放飼してください。

※1振り当り、約10頭が放飼されます。1ボトル当り200回を目安に、圃場の面積、畝数に応じて、放飼してください。

#### ►►チリガブリ®の上手な使いかた◄◄



容器を横にして5~6回程度ゆっくりと回転させます。



少量に分けて放飼します。(1振り当り約10頭が放飼されます。)



フタを開けたまま株間に数日置きます。(放飼直後は容器内にチリカブリダニが残っています。それらを全て圃場に移動させます。)



10アール当り2~3ボトルを使用してください。  
1ボトル当り約200回振ると、全頭放飼されますよ。

使用時期

- ハダニの発生初期に放飼してください。
- ハダニの発生している箇所へ多めに放飼すると、より効果的です。
- 放飼前日までに、アカリタッチ乳剤等の気門封鎖型の殺ダニ剤(チリカブリダニに影響のない薬剤)を散布し、ハダニの密度を下げておくと防除効果が高まります。ただし、ハダニの密度が高い場合は、選択性の化学農薬を散布し、大幅にハダニ密度を下げてから放飼してください。

効果の確認

放飼直後には効果は見られませんが、放飼3~4週間後頃に、ハダニの減少とチリカブリダニの増加が観察されます。

これらの様子が観察され、ハダニ被害が拡大する勢いが抑えられたり、新葉が展開してきたら、チリカブリダニは順調に定着しているものと考えられます。